2014年度自己点検・評価報告書（シート）

【目標の進捗状況（達成度）評価・報告】（最終年度）

≪大学≫

担当（記述）部局は、　　☆印の箇所を記入してください。

Ⅰ．評価項目・要素と担当部局

本報告書（シート）の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	法学研究科
大項目	5 学生の受け入れ （研究科）
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示
	当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示
	障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性
	入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3　適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性
	定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4　学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

Ⅱ．目標の進捗状況（達成度）評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況（達成度）評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況（達成度）の自己評価を行っている。
進捗状況（達成度）評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況（達成度）の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価）であり、A,B,C,Dの4段階で行ったものである。A,B,C,D評価の基準は目安として次のようなものである。

A　：　目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
B　：　目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
C　：　目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
D　：　目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況（達成度）評価 2009	2010	2011	2012	2013 ☆
1．他学部・他大学出身者に拡大した特別入試制度の効果を検証し、一層の制度改革の必要性について検討する。	→「他学部・他大学からの受験者数・合格者数・入学者数」「他学部・他大学からの入学者に対するアンケート調査の実施」「他学部・他大学からの入学者拡大の数値目標についての大学院問題検討委員会における検討」	B	B	B	B	B
2．社会人に拡大した特別入試制度による社会人入学者の増加を検証し、一層の制度改革の必要性について検討する。	→「社会人の受験者数・合格者数・入学者数」「社会人受験者の専攻科目」「社会人入学者の履修科目（昼夜別）」［社会人入学者に対するアンケート調査の実施と分析」「社会人入学者拡大の数値目標についての大学院問題検討委員会における検討」	B	B	B	B	B
3．本研究科への進学希望者のニーズを把握し、受験者を大幅に増加させるために効果的な方法を検討する。	→「学部学生に対するニーズ調査・進路希望調査の実施と分析」「大学入試説明会の開催状況」「学部学生と大学院生の交流状況」「広報活動の強化」「受験者数」「進学希望者のニーズを把握するための検討の進捗状況」	C	C	C	C	B
4．学生募集および入学者選抜の実施に伴う合否判定基準の適切さについて、定期的に検証する。	→「各種入試の合否判定基準についての大学院問題検討委員会における定期的検討」「各年度における大学院問題検討委員会における検討状況についての研究科委員長への報告」	B	B	B	A	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	／	／	／	／	／
	→	／	／	／	／	／

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況（達成度）について、次のとおり説明・報告する。

目標1	B	Do:目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか	
		2013年度より大学全体で大学院進学相談会が開かれるようになり、他大学院からの1名の特別入試制度合格者があった。今後とも広報を充実していくことが課題である。	☆
		Check:結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か	
		全学で大学院進学相談を行った宣伝の効果か、2012年度0であった他学部・他研究科出身特別入学者が1名となった。	☆
		Action:今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	
		全学大学院進学相談と共に、商学部等、関係する学部、大学院に重点を定めて宣伝を行っていく必要がある。	☆
		その他	
			☆
目標2	B	Do:目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか	
		2010年度から他学部・他研究科出身社会人特別入学試験は新設した。	☆
		Check:結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か	
		新設時法学研究科出身者2名、他学部・他研究科出身者3名の入学があった。その後、恒常的に複数の入学者があったが、今年度は1名であった。	☆
		Action:今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	
		社会人特別入学を増やすには、全学的に梅田キャンパスで宣伝を行う、企業、自治体との連携を図る等の特別の工夫が必要であろう。	☆
		その他	
			☆
目標3	B	Do:目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできた	
		2010年度に入試制度を多様化し、税理士志望者増に合わせ税法専任ポストを増やし、大学院入学志望者の需要に対応した。2012年度は梅田キャンパスでも説明会を行った。2013年度からは学部別大学院進学相談から全学進学説明会に変更、大学院進学希望者向けて大学院宣伝用カヴァーの作成、宣伝紙等の広報を充実させ入学者減に歯止めを掛けるように努めた。	☆
		Check:結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か	
		大学院受験者は2009年度の入試改革で2010、2011年度と志望者数、合格者数共に増えたが、その後、横這い状態が続いていた。2013年度は就職状況改善に伴う大幅減が予想されたが、税法関係の法律実務プログラム志望が定着したことで、2009年度の状況に戻ることはなく、一応の歯止めはかかっている。	☆
		Action:今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	
		歯止めはかかったとはいえ、ビジネス法務、公共政策の両プログラムは就職状況改善の影響も受け入学者0であった。企業の高度職業人への需要も増大しており、大学全体の説明会のみに頼ることなく、法学部学生の進路相談においてもエキスパート・コースの意義を紹介するなど、従来の研究者養成と異なった大学院像を示すなど広報面も含め新たな工夫が必要となる。	☆
		その他	
		大学院入学定員を減らさなかったこともあり、数字の上では充足率が悪いが、実数においては他研究科と比べ悪くはない。むしろ、高度職業人養成という点では一歩進んでいるのではないかと評価している。就職状況の変化により入学者は減少したが、今後、高度職業人養成として就職状況の変化に左右されない道をめざす必要がある。	☆

目標4	A	Do：目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか	
		2010年度以降の入試制度の多様化に合わせ、2011年度に入試制度における論文試験・外国語試験・面接試験の評価基準および実施方法について拡大大学院問題検討委員会および研究科委員会において検討し、申し合わせの改正等を行った。各種入試の判定基準の適正さについては大学院運営委員会で検討し、研究科委員長に報告している。	☆
		Check：結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か	
		入試の多様化に伴い、大学院受験資格についての問い合わせが多く、その都度、大学院運営委員会で検討し、研究科委員会で承認を得ねばならなかった。	☆
		Action：今後どうするのか。伸長策、改善策は何か	
		大学院受験資格については、事例も蓄積されてきており、研究科委員会の承認に基づき、標準化した事例については大学院運営委員会で判断することとした。	☆
		その他	
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

（特定項目データ）本項目は数量的なデータによる評価（現状分析）が可能なため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【法学研究科】		前期／後期課程	単位	2010	2011	2012	2013	2014	備　考
指標1	入学定員	前期課程	名	45	45	45	45	45	・5/1現在
		後期課程		6	6	6	6	6	
指標2	志願者総数	前期課程	人	39	55	42	39	27	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		8	4	5	2	7	
指標3	合格者数	前期課程	名	25	32	23	21	17	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		2	2	4	1	2	
指標4	入学者数	前期課程	名	20	26	20	20	16	・当年度は5/1現在 ・前年度以前は秋学期入学を含める
		後期課程		2	1	3	1	2	
指標5	志願者倍率	前期課程	倍	0.9	1.2	0.9	0.9	0.6	・5/1現在 ・志願者÷入学定員
		後期課程		1.3	0.7	0.8	0.3	1.2	
指標6	入学定員に対する入学者数比率（5年間平均）	前期課程	倍	0.32	0.37	0.41	0.44	0.45	
		後期課程		0.37	0.37	0.33	0.30	0.30	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	前期課程	%	50.0%	61.5%	60.0%	55.0%	56.3%	・5/1現在 ・一般入試入学者数÷入学者数
		後期課程		100.0%	100.0%	33.3%	0.0%	100.0%	
指標8	収容定員	前期課程	名	90	90	90	90	90	・5/1現在
		後期課程		18	18	18	18	18	
指標9	在籍学生数	前期課程	名	36	49	49	44	39	・5/1現在
		後期課程		6	5	6	5	10	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	前期課程	%	40.0%	54.4%	54.4%	48.9%	43.3%	・5/1現在
		後期課程		33.3%	27.8%	33.3%	27.8%	55.6%	